



GUNMA INNOVATION AWARD 2020

群馬イノベーションアワード2020協賛社トップ座談会「コロナ禍の戦略」vol.1

起業家発掘プロジェクト「群馬イノベーションアワード(GIA2020)」の実行委員と特別協賛社、パートナー企業のトップらが「コロナ禍の戦略をテーマに、デジタル化推進や循環型社会などについて座談会形式で意見を交わした。その様子を6回シリーズ(原則金曜日掲載)で紹介する。(敬称略)

デジタル改革に全力 甲

循環型社会の加速を 芝崎

高度人材の雇用に力 丸野

根幹事業から新事業 関口

【田中 仁】 コロナ禍は非常に大きな負荷を与えてくれた。危機の時こそ、その会社の弱さが露呈する。今後、デジタルトランスフォーメーション(DX)が必要だと痛感し、本気で取り組んでいる。DXの本質は、顧客理解。現場の経験値から物事を判断することが多かったが、データを可視化することで消費行動を把握し、効率化したい。

【丸野 ケンジ】 コロナ禍は非常に環境問題に関係して亡くなる人は年間900万人とされるが、コロナの拡大で中国やインドの大気汚染が改善された。今後、持続可能な社会づくりが非常に重要視される。天然資源に限りがある中で、「作って、使って、捨てる」というこれまでのビジネスモデルを変える必要がある。パンデミックが起これば、資源の取合いになり、資源が減れば、持続可能は難しい。コロナ禍は、循環型社会を加速させるいい機会になった。今後高崎を拠点に資源を循環してビジネスにつなげるサイエノエコノミー(循環型経済)に取り組む。

【関口 典明】 外国人を中心に製造業へ人材を派遣している。コロナ禍によるメカニクスの稼働停止で大打撃を受けたが、何とかやってきた。製造業派遣以外に、インド人の高度人材の雇用に力を入れている。本社の社員として1人を採用したが、コロナ禍で来日できず、現地でのテレワークに切り替えたところ、データ入力や名簿作成などの業務がスムーズにいった。

【芝崎 友哉】 遠隔で可能な業務もあることや、オフショアなども活用しながら事業規模を拡大できればコストが抑えられることが分かった。今後、生かせるいい機会になった。この先どうなるかわからないが、逆にプラスに捉えられる部分も多い。景気後退時の対応や、いろいろな戦略を考える時間が生まれた。

参加者

田中 仁・ジンズホールディングスCEO たなか・ひとし 1963年、前橋市生まれ。88年にジェイアイエヌを設立、眼鏡事業に進出し、「JINS」ブランドの新商品が次々にヒット。2014年、起業支援・地域振興を目的に田中仁財団を設立

芝崎 友哉 群成舎取締役イノベーション事業部長 しばさき・ともや 1985年、高崎市生まれ。大学卒業後、市川環境エンジニアリングで環境保全に関わる事業開発に従事。大学院で経営学やM&Aを学び、修士課程修了。2019年から現職

丸野 ケンジ KJ Internacional 社長 まるの・けんじ 1989年、ペルー生まれ。桐生市育ち。人材派遣会社勤務を経て2014年に独立。外国人と製造業企業をつなぐ会社として事業拡大中。インド出身の高度人材の派遣に力を入れる

関口 典明 コーエイ社長 せきぐち・のりあき 1965年、前橋市生まれ。89年に入社し、イベント部門を立ち上げる。以来30数年にわたり、「ふわふわフェスティバル」など多彩なイベントをプロデュースしている

島津 文弘 島津会計税理士法人代表社員 しまつ・ふみひろ 1959年、高崎市生まれ。大学卒業後、会長の島津弘氏が64年に創業した島津弘税理士事務所に入所。税理士法人への組織変更を機に、2002年に代表社員に就任した

渡辺 辰吾 ソウワ・ディライト 社長 わたなべ・しんご 1976年、前橋市生まれ。2014年から現職。「デンキのミライにワクワクする」というビジョンを掲げ、人と環境、地域と企業が共生可能な循環型エコシステムを構築

佐藤 拓・高崎佐藤眼科院長 さとう・たく 1971年、宮崎市生まれ。元群馬大学医学部眼科講師。専門は加齢黄斑変性。2016年、高崎佐藤眼科を開設。群馬イノベーションアワード2016ファイナリスト

坂入 勝・美喜仁社長 さかいり・まさる 1959年、桐生市生まれ。先代が開業した美喜仁寿司に82年入社。2007年から現職。桐生、太田、高崎で「海鮮ダイニング美喜仁館」などを経営する

斎藤 郁雄・富士スバル会長兼CEO さいとう・いくお 1967年、前橋市生まれ。大学院卒業後、外資系証券会社勤務を経て富士オート入社。2003年にグループ会社のユーロプレッツア代表取締役社長、15年から現職

中村 敬太郎・前橋園芸社長 なかむら・けいたろう 1971年、前橋市生まれ。造園・外構工事会社勤務を経て、2003年に家業の前橋園芸入社。10年から現職。造園工事、観葉植物レンタル、生花販売などを手掛ける



困難な経験 次の成長へ



ネットでも新たな展開 島津 働き方は生活と密接 渡辺 本質の大事さを実感 佐藤

【田中 仁】 高崎で会計事務所を営んでいる。地域型の業種で、群馬のお客さまを中心に訪問するスタイルを取っていたが、コロナ禍で遠方の社長とネットを相談したり、コミュニケーションを取る経験ができた。群馬に限定することなく、訪問しなくてもネットで税理士業務・申告業務ができ、新たな展開を感じている。お客さまを訪問する際は、感染リスクを抑えるため、事前にネットでデータチェックし、滞在時間を最小限にして対応した。コロナ以前より、財務システムから電子申告と同じように決算書を銀行に送ることに賛同する社長もいる。企業のストレスチェックのお手伝いもあるが、対面よりネットの方がいい感じに連れる場合もある。だいぶ時代が変わってきた。

【丸野 ケンジ】 確かに、時代の変化に合わせて、今までの商流ではなく独自の商流をつくる必要がある。働き方の面からは、電気設備業の当社は以前からソフトウェア開発のサイボウズと改革を進めており、コロナ禍で安値競争(当時)が激化し、最低7割減らすよう求めた際、1週間に対応できた。今も出社義務はないが、それでも出社してくる社員は

【関口 典明】 自宅よりも会社のほうが落ち着ける空間になってきているからだろう。働き方として、ワークとライフが融合する考え方が大切だ。会社の前に森をつ

【渡辺 辰吾】 自分よりも会社のほうが落ち着ける空間になってきているからだろう。働き方として、ワークとライフが融合する考え方が大切だ。会社の前に森をつ

【佐藤 拓】 高崎で会計事務所を営んでいる。地域型の業種で、群馬のお客さまを中心に訪問するスタイルを取っていたが、コロナ禍で遠方の社長とネットを相談したり、コミュニケーションを取る経験ができた。群馬に限定することなく、訪問しなくてもネットで税理士業務・申告業務ができ、新たな展開を感じている。お客さまを訪問する際は、感染リスクを抑えるため、事前にネットでデータチェックし、滞在時間を最小限にして対応した。コロナ以前より、財務システムから電子申告と同じように決算書を銀行に送ることに賛同する社長もいる。企業のストレスチェックのお手伝いもあるが、対面よりネットの方がいい感じに連れる場合もある。だいぶ時代が変わってきた。

【島津 文弘】 確かに、時代の変化に合わせて、今までの商流ではなく独自の商流をつくる必要がある。働き方の面からは、電気設備業の当社は以前からソフトウェア開発のサイボウズと改革を進めており、コロナ禍で安値競争(当時)が激化し、最低7割減らすよう求めた際、1週間に対応できた。今も出社義務はないが、それでも出社してくる社員は

【関口 典明】 自宅よりも会社のほうが落ち着ける空間になってきているからだろう。働き方として、ワークとライフが融合する考え方が大切だ。会社の前に森をつ

【丸野 ケンジ】 確かに、時代の変化に合わせて、今までの商流ではなく独自の商流をつくる必要がある。働き方の面からは、電気設備業の当社は以前からソフトウェア開発のサイボウズと改革を進めており、コロナ禍で安値競争(当時)が激化し、最低7割減らすよう求めた際、1週間に対応できた。今も出社義務はないが、それでも出社してくる社員は

【田中 仁】 高崎で会計事務所を営んでいる。地域型の業種で、群馬のお客さまを中心に訪問するスタイルを取っていたが、コロナ禍で遠方の社長とネットを相談したり、コミュニケーションを取る経験ができた。群馬に限定することなく、訪問しなくてもネットで税理士業務・申告業務ができ、新たな展開を感じている。お客さまを訪問する際は、感染リスクを抑えるため、事前にネットでデータチェックし、滞在時間を最小限にして対応した。コロナ以前より、財務システムから電子申告と同じように決算書を銀行に送ることに賛同する社長もいる。企業のストレスチェックのお手伝いもあるが、対面よりネットの方がいい感じに連れる場合もある。だいぶ時代が変わってきた。

【芝崎 友哉】 遠隔で可能な業務もあることや、オフショアなども活用しながら事業規模を拡大できればコストが抑えられることが分かった。今後、生かせるいい機会になった。この先どうなるかわからないが、逆にプラスに捉えられる部分も多い。景気後退時の対応や、いろいろな戦略を考える時間が生まれた。

【丸野 ケンジ】 コロナ禍は非常に環境問題に関係して亡くなる人は年間900万人とされるが、コロナの拡大で中国やインドの大気汚染が改善された。今後、持続可能な社会づくりが非常に重要視される。天然資源に限りがある中で、「作って、使って、捨てる」というこれまでのビジネスモデルを変える必要がある。パンデミックが起これば、資源の取合いになり、資源が減れば、持続可能は難しい。コロナ禍は、循環型社会を加速させるいい機会になった。今後高崎を拠点に資源を循環してビジネスにつなげるサイエノエコノミー(循環型経済)に取り組む。

【関口 典明】 外国人を中心に製造業へ人材を派遣している。コロナ禍によるメカニクスの稼働停止で大打撃を受けたが、何とかやってきた。製造業派遣以外に、インド人の高度人材の雇用に力を入れている。本社の社員として1人を採用したが、コロナ禍で来日できず、現地でのテレワークに切り替えたところ、データ入力や名簿作成などの業務がスムーズにいった。

【田中 仁】 コロナ禍は非常に大きな負荷を与えてくれた。危機の時こそ、その会社の弱さが露呈する。今後、デジタルトランスフォーメーション(DX)が必要だと痛感し、本気で取り組んでいる。DXの本質は、顧客理解。現場の経験値から物事を判断することが多かったが、データを可視化することで消費行動を把握し、効率化したい。

【丸野 ケンジ】 コロナ禍は非常に環境問題に関係して亡くなる人は年間900万人とされるが、コロナの拡大で中国やインドの大気汚染が改善された。今後、持続可能な社会づくりが非常に重要視される。天然資源に限りがある中で、「作って、使って、捨てる」というこれまでのビジネスモデルを変える必要がある。パンデミックが起これば、資源の取合いになり、資源が減れば、持続可能は難しい。コロナ禍は、循環型社会を加速させるいい機会になった。今後高崎を拠点に資源を循環してビジネスにつなげるサイエノエコノミー(循環型経済)に取り組む。

【関口 典明】 外国人を中心に製造業へ人材を派遣している。コロナ禍によるメカニクスの稼働停止で大打撃を受けたが、何とかやってきた。製造業派遣以外に、インド人の高度人材の雇用に力を入れている。本社の社員として1人を採用したが、コロナ禍で来日できず、現地でのテレワークに切り替えたところ、データ入力や名簿作成などの業務がスムーズにいった。

【田中 仁】 コロナ禍は非常に大きな負荷を与えてくれた。危機の時こそ、その会社の弱さが露呈する。今後、デジタルトランスフォーメーション(DX)が必要だと痛感し、本気で取り組んでいる。DXの本質は、顧客理解。現場の経験値から物事を判断することが多かったが、データを可視化することで消費行動を把握し、効率化したい。

【丸野 ケンジ】 コロナ禍は非常に環境問題に関係して亡くなる人は年間900万人とされるが、コロナの拡大で中国やインドの大気汚染が改善された。今後、持続可能な社会づくりが非常に重要視される。天然資源に限りがある中で、「作って、使って、捨てる」というこれまでのビジネスモデルを変える必要がある。パンデミックが起これば、資源の取合いになり、資源が減れば、持続可能は難しい。コロナ禍は、循環型社会を加速させるいい機会になった。今後高崎を拠点に資源を循環してビジネスにつなげるサイエノエコノミー(循環型経済)に取り組む。

【関口 典明】 外国人を中心に製造業へ人材を派遣している。コロナ禍によるメカニクスの稼働停止で大打撃を受けたが、何とかやってきた。製造業派遣以外に、インド人の高度人材の雇用に力を入れている。本社の社員として1人を採用したが、コロナ禍で来日できず、現地でのテレワークに切り替えたところ、データ入力や名簿作成などの業務がスムーズにいった。

【田中 仁】 コロナ禍は非常に大きな負荷を与えてくれた。危機の時こそ、その会社の弱さが露呈する。今後、デジタルトランスフォーメーション(DX)が必要だと痛感し、本気で取り組んでいる。DXの本質は、顧客理解。現場の経験値から物事を判断することが多かったが、データを可視化することで消費行動を把握し、効率化したい。

【丸野 ケンジ】 コロナ禍は非常に環境問題に関係して亡くなる人は年間900万人とされるが、コロナの拡大で中国やインドの大気汚染が改善された。今後、持続可能な社会づくりが非常に重要視される。天然資源に限りがある中で、「作って、使って、捨てる」というこれまでのビジネスモデルを変える必要がある。パンデミックが起これば、資源の取合いになり、資源が減れば、持続可能は難しい。コロナ禍は、循環型社会を加速させるいい機会になった。今後高崎を拠点に資源を循環してビジネスにつなげるサイエノエコノミー(循環型経済)に取り組む。

【関口 典明】 外国人を中心に製造業へ人材を派遣している。コロナ禍によるメカニクスの稼働停止で大打撃を受けたが、何とかやってきた。製造業派遣以外に、インド人の高度人材の雇用に力を入れている。本社の社員として1人を採用したが、コロナ禍で来日できず、現地でのテレワークに切り替えたところ、データ入力や名簿作成などの業務がスムーズにいった。

【田中 仁】 コロナ禍は非常に大きな負荷を与えてくれた。危機の時こそ、その会社の弱さが露呈する。今後、デジタルトランスフォーメーション(DX)が必要だと痛感し、本気で取り組んでいる。DXの本質は、顧客理解。現場の経験値から物事を判断することが多かったが、データを可視化することで消費行動を把握し、効率化したい。

【丸野 ケンジ】 コロナ禍は非常に環境問題に関係して亡くなる人は年間900万人とされるが、コロナの拡大で中国やインドの大気汚染が改善された。今後、持続可能な社会づくりが非常に重要視される。天然資源に限りがある中で、「作って、使って、捨てる」というこれまでのビジネスモデルを変える必要がある。パンデミックが起これば、資源の取合いになり、資源が減れば、持続可能は難しい。コロナ禍は、循環型社会を加速させるいい機会になった。今後高崎を拠点に資源を循環してビジネスにつなげるサイエノエコノミー(循環型経済)に取り組む。

【関口 典明】 外国人を中心に製造業へ人材を派遣している。コロナ禍によるメカニクスの稼働停止で大打撃を受けたが、何とかやってきた。製造業派遣以外に、インド人の高度人材の雇用に力を入れている。本社の社員として1人を採用したが、コロナ禍で来日できず、現地でのテレワークに切り替えたところ、データ入力や名簿作成などの業務がスムーズにいった。

【田中 仁】 コロナ禍でもクリニックは休めない。大きな空気を浄化装置を設置したり、フェーシングを装着して患者に安心感を与えた。スタッフ全員をベースアップし、サプライズとして1人10万円を手渡し、あなたちの仕事をとても大事と感謝の気持ちを伝えた。一番考えるべきは本質であり、自分たちが何のために存在するのか本質に考えさせられた。本質がビジョンが大事だと改めて思い知らされた。

【丸野 ケンジ】 コロナ禍で改革をやらざるを得なくなったというのが大きな出来事となった。まだまだ試行錯誤して検証中だが、次の時代を見据え、お客さまとより良い関係を築いていきたい。

【関口 典明】 外構造園業と観葉植物レンタル、冠婚葬祭の生花の3事業を展開している。コロナ禍で一番打撃を受けているのは、生花。主に結婚式がメインだったこともあり、かなりひどい状況だ。ピンチはチャンスとの考え方で何ができるか思いを巡らせ、「花を置かない花屋」にたどり着いた。

【田中 仁】 コロナ禍は非常に大きな負荷を与えてくれた。危機の時こそ、その会社の弱さが露呈する。今後、デジタルトランスフォーメーション(DX)が必要だと痛感し、本気で取り組んでいる。DXの本質は、顧客理解。現場の経験値から物事を判断することが多かったが、データを可視化することで消費行動を把握し、効率化したい。

【丸野 ケンジ】 コロナ禍は非常に環境問題に関係して亡くなる人は年間900万人とされるが、コロナの拡大で中国やインドの大気汚染が改善された。今後、持続可能な社会づくりが非常に重要視される。天然資源に限りがある中で、「作って、使って、捨てる」というこれまでのビジネスモデルを変える必要がある。パンデミックが起これば、資源の取合いになり、資源が減れば、持続可能は難しい。コロナ禍は、循環型社会を加速させるいい機会になった。今後高崎を拠点に資源を循環してビジネスにつなげるサイエノエコノミー(循環型経済)に取り組む。

【関口 典明】 外国人を中心に製造業へ人材を派遣している。コロナ禍によるメカニクスの稼働停止で大打撃を受けたが、何とかやってきた。製造業派遣以外に、インド人の高度人材の雇用に力を入れている。本社の社員として1人を採用したが、コロナ禍で来日できず、現地でのテレワークに切り替えたところ、データ入力や名簿作成などの業務がスムーズにいった。

【田中 仁】 コロナ禍は非常に大きな負荷を与えてくれた。危機の時こそ、その会社の弱さが露呈する。今後、デジタルトランスフォーメーション(DX)が必要だと痛感し、本気で取り組んでいる。DXの本質は、顧客理解。現場の経験値から物事を判断することが多かったが、データを可視化することで消費行動を把握し、効率化したい。

【丸野 ケンジ】 コロナ禍は非常に環境問題に関係して亡くなる人は年間900万人とされるが、コロナの拡大で中国やインドの大気汚染が改善された。今後、持続可能な社会づくりが非常に重要視される。天然資源に限りがある中で、「作って、使って、捨てる」というこれまでのビジネスモデルを変える必要がある。パンデミックが起これば、資源の取合いになり、資源が減れば、持続可能は難しい。コロナ禍は、循環型社会を加速させるいい機会になった。今後高崎を拠点に資源を循環してビジネスにつなげるサイエノエコノミー(循環型経済)に取り組む。

【関口 典明】 外国人を中心に製造業へ人材を派遣している。コロナ禍によるメカニクスの稼働停止で大打撃を受けたが、何とかやってきた。製造業派遣以外に、インド人の高度人材の雇用に力を入れている。本社の社員として1人を採用したが、コロナ禍で来日できず、現地でのテレワークに切り替えたところ、データ入力や名簿作成などの業務がスムーズにいった。

【田中 仁】 コロナ禍は非常に大きな負荷を与えてくれた。危機の時こそ、その会社の弱さが露呈する。今後、デジタルトランスフォーメーション(DX)が必要だと痛感し、本気で取り組んでいる。DXの本質は、顧客理解。現場の経験値から物事を判断することが多かったが、データを可視化することで消費行動を把握し、効率化したい。

【丸野 ケンジ】 コロナ禍は非常に環境問題に関係して亡くなる人は年間900万人とされるが、コロナの拡大で中国やインドの大気汚染が改善された。今後、持続可能な社会づくりが非常に重要視される。天然資源に限りがある中で、「作って、使って、捨てる」というこれまでのビジネスモデルを変える必要がある。パンデミックが起これば、資源の取合いになり、資源が減れば、持続可能は難しい。コロナ禍は、循環型社会を加速させるいい機会になった。今後高崎を拠点に資源を循環してビジネスにつなげるサイエノエコノミー(循環型経済)に取り組む。

【関口 典明】 外国人を中心に製造業へ人材を派遣している。コロナ禍によるメカニクスの稼働停止で大打撃を受けたが、何とかやってきた。製造業派遣以外に、インド人の高度人材の雇用に力を入れている。本社の社員として1人を採用したが、コロナ禍で来日できず、現地でのテレワークに切り替えたところ、データ入力や名簿作成などの業務がスムーズにいった。

【田中 仁】 コロナ禍は非常に大きな負荷を与えてくれた。危機の時こそ、その会社の弱さが露呈する。今後、デジタルトランスフォーメーション(DX)が必要だと痛感し、本気で取り組んでいる。DXの本質は、顧客理解。現場の経験値から物事を判断することが多かったが、データを可視化することで消費行動を把握し、効率化したい。

【丸野 ケンジ】 コロナ禍は非常に環境問題に関係して亡くなる人は年間900万人とされるが、コロナの拡大で中国やインドの大気汚染が改善された。今後、持続可能な社会づくりが非常に重要視される。天然資源に限りがある中で、「作って、使って、捨てる」というこれまでのビジネスモデルを変える必要がある。パンデミックが起これば、資源の取合いになり、資源が減れば、持続可能は難しい。コロナ禍は、循環型社会を加速させるいい機会になった。今後高崎を拠点に資源を循環してビジネスにつなげるサイエノエコノミー(循環型経済)に取り組む。

【関口 典明】 外国人を中心に製造業へ人材を派遣している。コロナ禍によるメカニクスの稼働停止で大打撃を受けたが、何とかやってきた。製造業派遣以外に、インド人の高度人材の雇用に力を入れている。本社の社員として1人を採用したが、コロナ禍で来日できず、現地でのテレワークに切り替えたところ、データ入力や名簿作成などの業務がスムーズにいった。

【田中 仁】 コロナ禍は非常に大きな負荷を与えてくれた。危機の時こそ、その会社の弱さが露呈する。今後、デジタルトランスフォーメーション(DX)が必要だと痛感し、本気で取り組んでいる。DXの本質は、顧客理解。現場の経験値から物事を判断することが多かったが、データを可視化することで消費行動を把握し、効率化したい。

【丸野 ケンジ】 コロナ禍は非常に環境問題に関係して亡くなる人は年間900万人とされるが、コロナの拡大で中国やインドの大気汚染が改善された。今後、持続可能な社会づくりが非常に重要視される。天然資源に限りがある中で、「作って、使って、捨てる」というこれまでのビジネスモデルを変える必要がある。パンデミックが起これば、資源の取合いになり、資源が減れば、持続可能は難しい。コロナ禍は、循環型社会を加速させるいい機会になった。今後高崎を拠点に資源を循環してビジネスにつなげるサイエノエコノミー(循環型経済)に取り組む。

【関口 典明】 外国人を中心に製造業へ人材を派遣している。コロナ禍によるメカニクスの稼働停止で大打撃を受けたが、何とかやってきた。製造業派遣以外に、インド人の高度人材の雇用に力を入れている。本社の社員として1人を採用したが、コロナ禍で来日できず、現地でのテレワークに切り替えたところ、データ入力や名簿作成などの業務がスムーズにいった。

【田中 仁】 コロナ禍は非常に大きな負荷を与えてくれた。危機の時こそ、その会社の弱さが露呈する。今後、デジタルトランスフォーメーション(DX)が必要だと痛感し、本気で取り組んでいる。DXの本質は、顧客理解。現場の経験値から物事を判断することが多かったが、データを可視化することで消費行動を把握し、効率化したい。

【丸野 ケンジ】 コロナ禍は非常に環境問題に関係して亡くなる人は年間900万人とされるが、コロナの拡大で中国やインドの大気汚染が改善された。今後、持続可能な社会づくりが非常に重要視される。天然資源に限りがある中で、「作って、使って、捨てる」というこれまでのビジネスモデルを変える必要がある。パンデミックが起これば、資源の取合いになり、資源が減れば、持続可能は難しい。コロナ禍は、循環型社会を加速させるいい機会になった。今後高崎を拠点に資源を循環してビジネスにつなげるサイエノエコノミー(循環型経済)に取り組む。

【関口 典明】 外国人を中心に製造業へ人材を派遣している。コロナ禍によるメカニクスの稼働停止で大打撃を受けたが、何とかやってきた。製造業派遣以外に、インド人の高度人材の雇用に力を入れている。本社の社員として1人を採用したが、コロナ禍で来日できず、現地でのテレワークに切り替えたところ、データ入力や名簿作成などの業務がスムーズにいった。

【田中 仁】 コロナ禍は非常に大きな負荷を与えてくれた。危機の時こそ、その会社の弱さが露呈する。今後、デジタルトランスフォーメーション(DX)が必要だと痛感し、本気で取り組んでいる。DXの本質は、顧客理解。現場の経験値から物事を判断することが多かったが、データを可視化することで消費行動を把握し、効率化したい。

【丸野 ケンジ】 コロナ禍は非常に環境問題に関係して亡くなる人は年間900万人とされるが、コロナの拡大で中国やインドの大気汚染が改善された。今後、持続可能な社会づくりが非常に重要視される。天然資源に限りがある中で、「作って、使って、捨てる」というこれまでのビジネスモデルを変える必要がある。パンデミックが起これば、資源の取合いになり、資源が減れば、持続可能は難しい。コロナ禍は、循環型社会を加速させるいい機会になった。今後高崎を拠点に資源を循環してビジネスにつなげるサイエノエコノミー(循環型経済)に取り組む。

【関口 典明】 外国人を中心に製造業へ人材を派遣している。コロナ禍によるメカニクスの稼働停止で大打撃を受けたが、何とかやってきた。製造業派遣以外に、インド人の高度人材の雇用に力を入れている。本社の社員として1人を採用したが、コロナ禍で来日できず、現地でのテレワークに切り替えたところ、データ入力や名簿作成などの業務がスムーズにいった。

【田中 仁】 コロナ禍は非常に大きな負荷を与えてくれた。危機の時こそ、その会社の弱さが露呈する。今後、デジタルトランスフォーメーション(DX)が必要だと痛感し、本気で取り組んでいる。DXの本質は、顧客理解。現場の経験値から物事を判断することが多かったが、データを可視化することで消費行動を把握し、効率化したい。